

## 文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	愛知県常滑市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	常滑市文化遺産総合活用推進事業		
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>第5次常滑市総合計画（平成28年3月策定）を踏まえ、各地域の伝統文化・文化財の保存・継承、普及を図るための事業を実施していく。なお、平成28年度文化遺産を活かした地域活性化事業では、平成28年度～平成32年度の5年間で実施計画を作成したが、本補助事業に制度が変更されるにあたり、新たに平成33年度までの5年間で実施計画を策定し、地域活性化の取り組みを行うとともに、その中で文化遺産の保存・活用方法への課題等の把握にも努めていく。</p>			
6 実施体制			
<p>本事業については、常滑市が全体計画の企画、調整、事業の指導等を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会 生涯学習スポーツ課</li> </ul> <p>事業の実施については、次の団体が行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常滑市文化遺産活用推進委員会（事務局：生涯学習スポーツ課）</li> </ul> <p>構成団体：「尾州廻船が伝えた常滑」地域活性化推進委員会、大野谷文化圏活性化推進委員会、矢田万歳保存会、尾張大野梅築車継承委員会、大谷祭礼活性委員会、常磐車建造100周年記念実行委員会、白山車建造百周年記念事業実行委員会</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額： 64,106 千円	平成29年度要望額： 10,674 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>市民の文化遺産に対する知識の向上や保存・継承・普及の必要性について理解を深めることができる。また、山車等の文化財を修復し、それらを活用することで後世への確実な継承と地域の活性化が期待できる。さらに常滑市では第5次常滑市総合計画で、様々な取り組みにより人口6万人（H29年3月現在は58,594人）を目標としており、本補助事業の普及啓発・継承事業を通じて市外からの転入者に対しても文化遺産への関心を高めていき、目標達成の一助となることも期待できる。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：			
事業概要：			
事業概要：			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
<p>本補助事業を活用して、官民一体での地域活性化に向けた取り組み体制を確立させるとともに、事業を通じて地域に根付く様々な文化遺産の保存や活用方法についての課題等を明確にし、歴史文化基本構想の策定を検討したい。</p>			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	常滑市教育委員会生涯学習スポーツ課		

## 7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分1:	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分1:	地域の文化遺産関係資料館、博物館等の年間入館者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標1:	常滑焼関連施設・観光名所の利用者数・観光客数 (やきもの散歩道、とこなめ陶の森等6か所)			関連事業:	事業①, ③~⑨	
目標値1:	平成 28 年度	801,900 人		⇒	平成 33 年度	1,142,000 人
設定根拠1:	過去10年間の入館者・利用数の伸び率が平均年約3.4%だったため、約2倍の年6.8%増に設定。					
進捗状況1:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分2:	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分2:	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標2:	矢田万歳保存会会員数			関連事業:	事業②, ⑩	
目標値2:	平成 28 年度	10 人		⇒	平成 33 年度	18 人
設定根拠2:	文化庁補助事業の活用により、H28の入会者は4人だったが、過去の入会者が0に近く、会員の高齢化を考慮し、年間1.6人増に設定。					
進捗状況2:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分3:	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分3:	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標3:	大谷区西部神事部の若い衆(山車・囃子の保存に従事する16歳以上の人)組織への参加人数			関連事業:	事業⑪, ⑮	
目標値3:	平成 28 年度	47 人		⇒	平成 33 年度	75 人
設定根拠3:	現在の16歳未満の住民数から設定。					
進捗状況3:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分4:	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分4:	祭礼行事への参加住民数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標4:	尾張大野梅榮車保存会会員数			関連事業:	事業②, ⑫, ⑯	
目標値4:	平成 28 年度	18 人		⇒	平成 33 年度	18 人
設定根拠4:	地区の人口が社会減の状況により、現状維持を設定。					
進捗状況4:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	

目標区分 5 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 5 :	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 5 :	常盤車保存会会員数			関連事業:	事業⑬, ⑰	
目標値 5 :	平成 28 年度		20 人	⇒	平成 33 年度 35 人	
設定根拠 5 :	過去3年間の入会者が約年1.3人のため、毎年2倍の年3人に設定。					
進捗状況 5 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 6 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 6 :	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 6 :	白山車保存会会員数			関連事業:	事業②, ⑩	
目標値 6 :	平成 28 年度		60 人	⇒	平成 33 年度 60 人	
設定根拠 6 :	地区の人口が社会減の状況により、現状維持を設定。					
進捗状況 6 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	



事業④：	とこなめ焼急須で手揉み茶を楽しむ会	実施団体：	『尾州廻船が伝えた常滑』地域活性化推進委員会			
事業⑤：	とこなめ焼急須活用講座	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業区分：	普及啓発					
事業概要：	煎茶を淹れるときの温度管理の方法ならびに使用する道具を社会に広め、茶葉の手揉みの実演、とこなめ焼急須で美味しく淹れる方法の講演指導会を開催する。また、各種の茶葉に向けた急須の選び方や、美味しくお茶をいただくための急須、ティーポットの使用法の講座を開催する。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	フェイスブックでの「いいね」の数					
目標値：	平成 28 年度 未開設 件		⇒ 平成 33 年度		500 件	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
件	件	件	件	件	件	
事業⑥：	とこなめ焼実践展示会 フラワーアート展	実施団体：	『尾州廻船が伝えた常滑』地域活性化推進委員会			
事業区分：	普及啓発		事業期間：平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	多くの人々に焼物の良さを知ってもらうため、常滑焼の陶芸作家などが造る焼物、オブジェクト、器物を使用したフラワーアート展を開催する。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	フェイスブックでの「いいね」の数					
目標値：	平成 28 年度 未開設 件		⇒ 平成 33 年度		500 件	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
件	件	件	件	件	件	

事業⑦：	とこなめ焼実践展示会	盆栽展示会	実施団体：	『尾州廻船が伝えた常滑』地域活性化推進委員会		
事業⑧：	とこなめ焼実践展示会	小品盆栽展示会	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
事業区分：	普及啓発					
事業概要：	盆栽鉢の生産高日本一は常滑市である。東洋の古来からの文化、盆栽鉢を植物とともに展示し、多くの人々に盆栽の文化を再認識させる展示会を開催する。また室内の癒しの品として存在価値が大きく、テーブル上でも展示が可能な小品盆栽の普及、再認識を促すため展示会を開催する。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	フェイスブックでの「いいね」の数					
目標値：	平成 28 年度		未開設 件	⇒	平成 33 年度 500 件	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
件	件	件	件	件	件	
事業⑨：	常滑焼技術普及継承推進事業			実施団体：	『尾州廻船が伝えた常滑』地域活性化推進委員会	
事業区分：	後継者養成			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度	
事業概要：	急須ろくろ技法、タタラ型押し技法、手捻り・ヨリコ技法、手彫り加飾技法などの多くの技法を公開し、多くの人々に焼物への理解を促すとともに、常滑焼に従事する人々の後継者に対して製作技法の保全、技術継承を促す。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	常滑焼従事者の数					
目標値：	平成 28 年度		400 人	⇒	平成 33 年度 500 人	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	







事業⑯：	尾張大野梅榮車整備事業	実施団体：	尾張大野梅榮車継承委員会			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	長年の使用で破れ等破損が目立ち、生地の劣化で縫い合わせることも困難になってきているので、復元新調するとともに、後継者養成も行っていく。 後継者養成については、別紙の後継者養成事業「尾張大野梅榮車後継者養成事業」を参照。					
評価指標区分：	・保存会会員数の変化（維持）			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	尾張大野梅榮車保存会会員数の現状維持					
目標値：	平成 28 年度	18	人	⇒	平成 33 年度	18 人
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
事業⑰：	常磐車整備事業	実施団体：	常磐車建造100周年記念実行委員会			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	常磐車が建造から約100年が経過し、彫刻や幕等が経年劣化しているため、部分的に修復し、後世に継承するための整備事業を行なっていく。 なお、後継者養成については、別紙の後継者養成事業「常磐車後継者養成事業」を参照。					
評価指標区分：	・保存会への新規入会者数			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	市場組 常磐車の山車保存会（山車部会）の会員数					
目標値：	平成 28 年度	20	人	⇒	平成 33 年度	35 人
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
事業⑱：	白山車整備事業	実施団体：	白山車建造百周年記念事業実行委員会			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	大正7年に建造された白山車の経年劣化による部分を修繕し、併せて後継者養成の事業を実施していく。 なお、後継者養成については、別紙の後継者養成事業「白山車後継者養成事業」を参照。					
評価指標区分：	・保存会会員数の変化（維持）			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	白山車保存会会員数の現状維持					
目標値：	平成 28 年度	60	人	⇒	平成 33 年度	60 人
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	